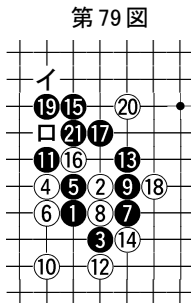


浦月四題目の解明 (9)

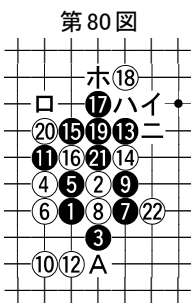
九段 河村典彦

【第79図】白8の変化。この8には黒9と押さえておく。続いて白



10と打たれたら手拍子で中止めしたくなるが、中止めは白12と三々を狙われてややこしくなる。ここは落ち着いて黒11と外から止めておきたい。それでも白12なら、今度は黒13から追い勝ちとなる。白14止めに黒15と見せ、18の地点は引かずに利かすだけにする。黒19と続けて見せ、黒21の筋が引けるので黒23よりイロとなる。なお、白14を反対なら18に引く。

【第80図】白12の変化。白10と呼応してこちらの方が見るからに強



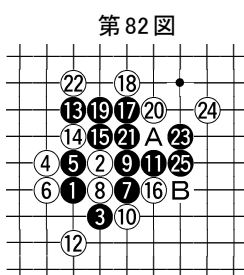
防だ。しかしこれにも黒13から上辺を目指せばよい。黒15、17と大海原に斜めが引ければまず間違いない。黒19、黒21と引くのが一番早い。黒23からイロハニホの四追い勝ちがある。

【第81図】白10の変化。前図は黒の止めた手が上辺の拠点になっていくことから、三を引かずに単に白10と止める手の方が強いと考えられてしまう。黒11から黒13と悠々引き出されては、白も粘りようが



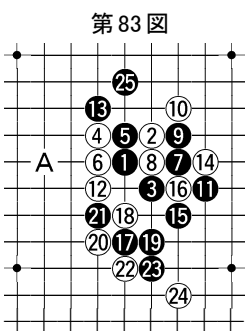
ない。黒15のトビ三に対し、白16の外止めは辛いがやむを得ない。黒17のミセ手から黒19とトビ三を打ち、以下Aで四三となる。それにしても、トビ三は追い詰める手も覚えておいて損はない。

【第82図】白10の変化。この防ぎには、



17の突き出しが四追い含みになっていくのがポイントである。ここが先手で打てればしめたものだ。白18のノリ手が少々やつかいだが、これも手順に黒19と止めれば攻めが途切れることはない。黒21、23の後、黒25と打つて以下AまたはBとなる。

【第83図】白10の変化。あとどこか

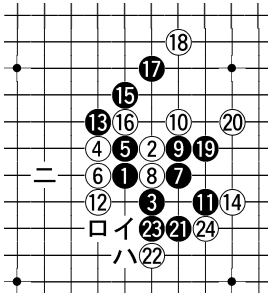


であったようだ。最初黒15に突き出していいかと思ったが、それだと白に一路下に防がれてはつきりしない。そこで見つけたのが黒11。これは次に追い勝ちを狙っているのだが、白の防ぎによっては、次に15と組む手が強烈である。白12、14なら黒15が炸裂

する。白16と止めても黒17のミセ手から攻める。黒19に白20が利くので勝ちが無いように見えるが、黒23と引く手が残っている。白24はやむを得ないが、黒25！と遠くの石を担ぎ出して次にAで四三となる。

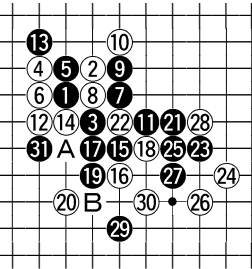
【第84図】白14の変化。こちらの白14の方が強いが、今度は別の筋で勝ちが出る。黒15、17はいつもの手筋で、黒19も引けるのがおしい。白20の止めには、黒21がやはり好点。対して白22の防ぎなら、黒23が見えにくいミセ手。以下全四追いで、白24にはイロハニの四追いがある。白20を反対なら、上辺でつなげていつて勝ちになる。

第84図



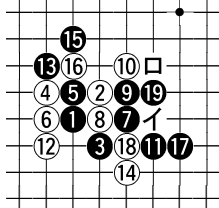
【第85図】白14の変化。白14が白打つのが良いだろう。単に打てば追い手にはならないが、止め方も難しい。白16、18でしっかり止められても、黒21と落ち着いて押さえればよい。白22が最強だと思うが、一本黒23と打ち、黒25とミセる。白26、28がトリッキーな防ぎだが、黒31まで落ち着いて打って良い。なお、白18を19なら当然黒18で良い。

第85図



【第86図】しからは、白14と先に黒の好点に先着すればどうなるだ

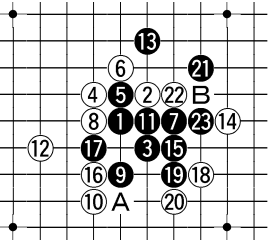
第86図



ろう。これには黒15とトビ、(外止めなら簡単)続けて黒17と連続トビ三を打てば驚くほど簡単に終わっている。黒19後イロノリ切り勝ちだ。

【第87図】第1回の連載でこの白6なら黒7で黒必勝と書いたが、再度調べてみると、実はそう簡単ではない。特に白8が強防である。結局、黒9と引いて黒11と構えるしかないそう。ここで白12が油断ならない手。うっかり中止めすると、白に追い勝ちがある。ここは黒13と先手を取る必要がある。次に黒15で終わっているように見えるが、白にも16という粘りがある。黒19と引いて黒21では含み手を打たなければならなくなり、かなり難しくなっている。しかし、黒23の地点を睨みながら打てばようやく勝ちが見えてくる。黒21と含むのがうまい。黒23後AまたはB。

第87図



こんな手数がかかるのは想定外だったが、何でも調べてみるものだ。また、白8を9と防ぐなら、黒11と引いて追い勝ちがある。その他の防ぎはここでは触れないので、各自調べてみてほしい。あとはその他の白6の変化をやれば、この講座も終わりになる。